

美術科授業案

日時 平成28年3月8日(火) 2校時
生徒 2年C組 男子15名 女子17名 計32名
授業場 美術室
授業者 更科 結希

1 題材名 「プロジェクションマッピングで学校を異空間に！」A表現(1)・B鑑賞

2 題材について

(1) 題材観

自分で課題を見つけ、主体的に判断しよりよく問題を解決する資質や能力の育成はいつの時代にも必要な力とされてきた。今日においても、21世紀型能力の重要な視点として、実践的な力に焦点をあてた教育が求められている。米国の21世紀型スキルの中で、創造性とイノベーションや問題解決能力の育成にかかわり、芸術教科の役割の重要性についてその効果や方法について成果が発表されており、今後精力的な実践が求められる。

美術科の学習指導要領においては、表現意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫を繰り返して自分の表現方法を見つけ出したりして、更に美しい、面白い表現を創出する技能を伸ばすことの大切さについて触れられている。そのためには、題材が生徒にとって表現したい主題を生みだしやすいものや工夫改善が効果的にされる題材構成が大切であると考えられる。

本題材では、プロジェクションマッピングを利用して、学校の一角を普段とは異なる空間に演出するものとした。表現の手法として使用するプロジェクションマッピング(以下PM)は、ビデオプロジェクターで立体物の面をスクリーンとして、映像を投影する技法であり、現代ではパフォーマンスイベントや広告アートとして幅広く用いられている。今回、投影演出を利用し、異空間と行ったカテゴリーの中で主題を生みだし、構想し表現するものとした。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

本題材では、異空間と行った場の設定の中で主題を生みだし、描く手法を用い空間の演出を行う表現活動を通して、発想や構想する力や意図にあった表現を追求する力の育成をねらいとしている。

【研究の視点】

「やるべきことの納得」に関わる手立だて(授業構成) A

鑑賞した作品から発想の着想に関わる思考を学び、それを生かし自ら主題を生み出し表現過程が行える授業を構成する。本題材では、PMで現実空間の中に非現実的な画像を投影し、「異空間」をつくることを課題とした。「異空間」を演出するために、≠学校に対するイメージを想起し、その中から自らの主題を生み出し表

現する授業構成とした。

「やりたいことをみつける調整」に関わる手だて B

手だて B は、表現する過程で既習事項を生かし、批判的に見る場を設定することとした。批判的に見るためには、既習事項が身につけていなければならないことと、作者のねらいを理解して見るが必要とされる。前時では、トリックアートの描画について学習しており、視覚的効果の陰影や奥行きに関する視点が本題材でも生かすことができる。

題材計画の中でこの手立ては、表現したいことをみつけ、実現するために試行を繰り返していく姿の実現のため、構想段階において実施するのが最適であると考え。また、授業の中で手立てを実施する場合は、参考作品のよい点ばかりを見るだけでなく、改善すべき点について着目し、具体的にどのように表現していくことが必要かについて触れるような批評的な意見交流の手だてを講じていく。

4 題材の目標

プロジェクションマッピングを利用し、異空間を演出するための構想を練り、構成を工夫しながら創造的に表現することができる。

5 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
<p>ア 異空間に演出することから、イメージを広げて主題を創出し、主体的に主題を生成して構想を練り、主題を追求して表現したりしようとしている。</p> <p>イ 鑑賞作品から、映像技術の効果を利用した表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p>	<p>ア 学校を異空間に演出することを元に、感性や想像力を働かせて、多くのアイデアから主題を生成し、表現形式の特性を活かして、形態、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。</p>	<p>ア 意図に応じて、材料や投影技法を活かし表現方法を工夫して主題を追求し表現している。</p>	<p>ア プロジェクションマッピングによる作品のよさや特徴を感じ、自己作品や他者作品に対する見方や感じ方、考えなどを持ち理解して鑑賞している。</p>

6 題材指導計画（全6時間）

	学習事項	主な学習活動・手だて	評価			
			関	発	創	鑑
手だて A 鑑賞作品を元にした課題の把握と主題の構想						
1	○東京駅や大阪城のPM作品を鑑賞し、原理や効果について学ぶ	<p>○PMの原理や効果についての考え方について学ぶ。</p> <p>・鑑賞作品から原理や効果について学習する。</p> <p>○異空間≠学校との比較をしながら、異空間のイメージを高める。</p> <p><個人→グループで広がりを持たせ、個人で選択する場面></p>	イ	ア		ア

2	PMする場所を確認し「異空間」にするための要素について考えを膨らませる	○異空間はどのような空間かを考え、言葉でイメージを出す。 ○言葉のイメージを、調査しながらスケッチし資料を蓄積する。 ＜個人での資料や画像の検索で蓄積をする場面＞	ア	ア		ア
3 本 時	異空間を作るためのイメージや形をまとめる	○スケッチや言葉のイメージを元に、空間に合わせた構想をまとめる。 ○異空間を創るために、適切な配置や描き方について考え、判断し、鑑賞する。 手だてB 主題と構想したスケッチの妥当性について、批評的な視点で鑑賞し、改善するための方策を考える。 ＜個人の考えを他者に伝え、他者の考えも取り入れより良い表現に向けた思考を促す場面＞	イ	ア		
4 5	異空間を目指し制作する	○構成を確認し、材料を適切に扱い表現する。 ○陰影や色彩の既習事項を生かし、空間に適した表現になるよう工夫する。 ＜個人の活動の中で、グループの意見を取り入れ表現の改善を加えていく場面＞	イ		ア	
6	PMし互いの作品を鑑賞する	○前時で制作したものを実際にPMし、互いの作品について鑑賞し、様々な表現について確認する。 ○作者の表現したい主題と表現の内容が合っているかについて鑑賞する。	ア			ア

7 本時案

(1) 本時の目標

主題に応じた場面の要素やイメージを構成し、効果的な空間演出のための工夫をすることができる。

(2) 本時の展開 3/6時間目 (○…発問,△…補助発問,□…指示,説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
1 前時の学習で蓄積したスケッチから、表現したい主題(テーマ)を決めることができる。	○前時でどのようなスケッチを貯め、主題(テーマ)はどのようにしようと考えましたか。 ・最初の言葉のイメージから具体的なモチーフを増やすことができたか確認する。	＜集団での活動＞ 【観察】 ・クロッキー帳
目指せ異空間！自分の思い描く空間を目指して構想を練ろう		
2 異空間を目指し、自らの主題を元に、図面にアイデアを描き構成することができる。	□主題を表現するために、前時にスケッチしたものを配置してみよう。 ・壁面以外にも天井、床にも投影することができることを確認する。	＜個人での活動＞ ・校舎図面ワークシート 【観察／構想カード】

<p>3 参考作品から主題を構成する時の工夫に着目し、良い表現や改善が必要な箇所について見つけワークシートに記入することができる。</p>	<p>○参考作品の中で、良い表現ができていると思うところはどこでしょうか。</p> <p>○参考作品をより効果的にするためには、どのような改善が必要でしょうか。 手立てB</p> <p>□改善したほうが良いところを考えワークシートに記入してみましょう。</p> <p>□他の人はどのような意見を持っているか交流してみましょう。</p> <p>○改善した方がよいところは、どのような工夫が考えられますか。</p>	<p><個人での活動></p> <p>・批評的意見記入ワークシート</p> <p><グループでの活動></p>
<p>【生徒の予想される考え（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置を変えたほうが良い →天井を利用する、床を利用する ・陰影をつけたほうが良い →立体感 ・イメージを統一したほうが良い →描いたものからの削除 ・奥行きをつけたほうが良い →重なりや透視図、大きさの変更 		
<p>4 仲間の構成の図面を見て、主題にあった構成になっているか意見を述べることができる。</p> <p>5 授業の取り組みを振り返りシートに記入することができる。</p>	<p>□どのような意見が出されていたか共有してみましょう。</p> <p>□班員の構想案を鑑賞して、主題に合い効果的な構成になっているか検討してみましょう。</p> <p>○自分の構想に対してどのような意見が得られましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善の意見を生かし描き変えたり、言葉で記入する。 <p>□次の時間では、構想を確定させ制作過程を考えます。</p>	<p><集団での活動></p> <p><グループでの活動></p> <p>【観察／構想カード】</p>